



2023年度 カブトガニ幼生生息調査結果

1 調査方法

(1) 調査場所

山口湾において砂泥質で生息数が多い『長浜』・『南潟』(図1)。

(2) 調査手法

設定した調査ライン上を1~3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅(図2)、③発見地点を記録しました(ベルトトランセクト法)。

長浜では16m間隔で20ライン(1,020m)、南潟では60m間隔で5ライン(1,000m)で実施。

(3) 調査日時

- 長浜: 2023年8月19日 13:15~17:15 (中潮・干潮16:23)
- 南潟: 2023年9月15日 12:00~15:30 (大潮・干潮15:01)

(4) 調査人数

- 長浜調査: 60人
- 南潟調査: 10人



図1 調査場所

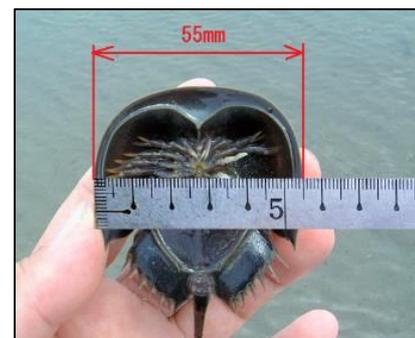


図2 前体幅の計測

2 調査結果

(1) 発見個体数

長浜で436個体、南潟で94個体が確認されました(図3)。

(2) 推定個体密度

調査範囲から試算した1ヘクタール当たりの推定個体密度は、長浜107個体/ha、南潟98/haでした(図4)。長浜は若干減少傾向、南潟は2021年に減少した後、増加傾向が見られます。

(3) 齢数の構成

前体幅から幼生の齢数を推定したところ、2006年には約7割が7齢(孵化から約4年目)で構成されていましたが、近年は3~6齢の若い齢数の割合が増加し、多様化がみられています(図5)。

(4) 生息地点

ライン別の個体数をみると、長浜は、西側のライン11~20(特に沖側)が減少傾向にあります。南潟は、ライン4が2013年から減少傾向にあります(図6、7)。



図3 カブトガニ幼生の発見個体数

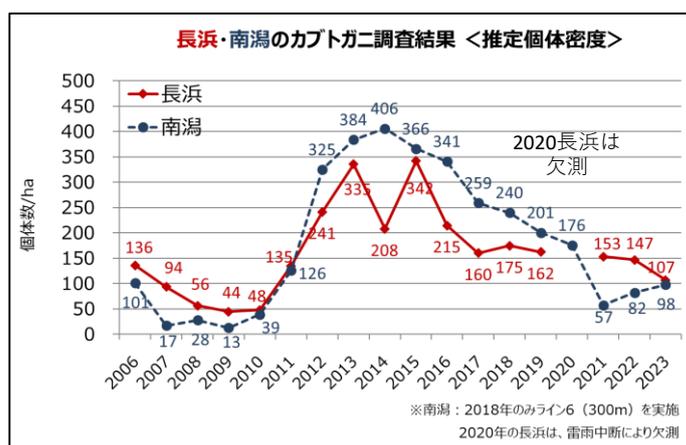


図4 カブトガニ幼生の推定個体密度

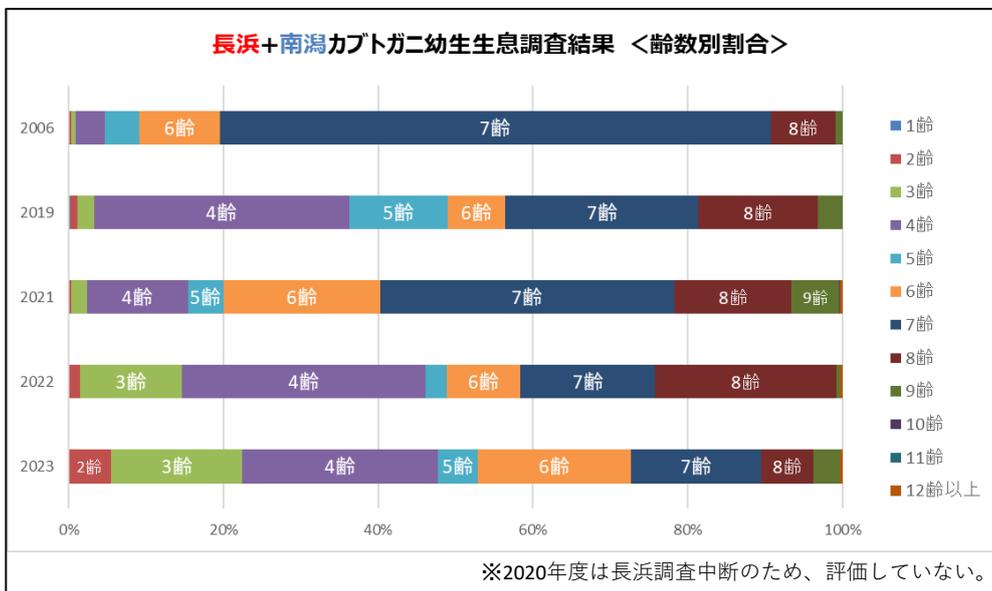


図5 カブトガニ幼生の年齢

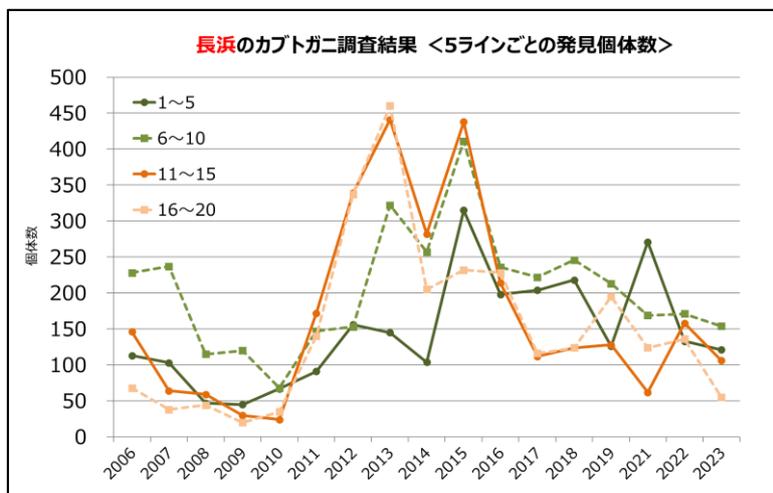


図6 カブトガニ幼生の発見個体数（ライン別・長浜）

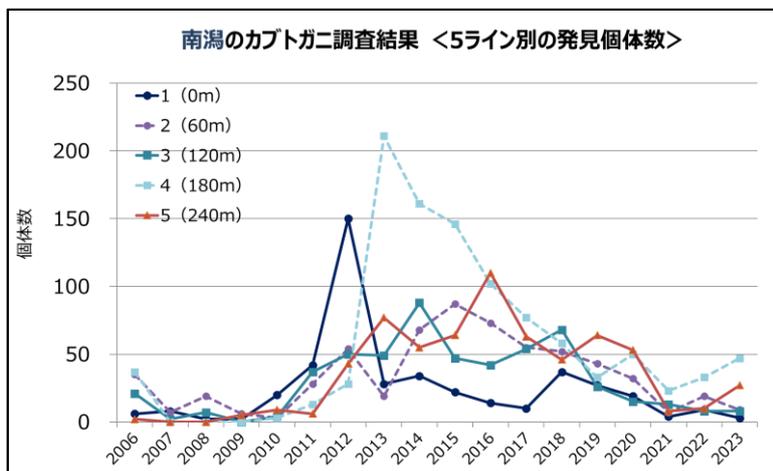


図7 カブトガニ幼生の発見個体数（ライン別・南潟）



3 おわりに

山口湾のように、ボランティアや大学等の多くの協力を得て、カブトガニの大規模な生息状況調査を実施している地域は無く、貴重なデータが蓄積されています。

本活動は、国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017（まもろう部門）」に入賞しており、絶滅の危機に瀕しているカブトガニを守るためのとても大切な活動です。今後も活動を継続し、住民等へのカブトガニ保護の啓発に努めていきたいと考えています。



カブトガニのつがい